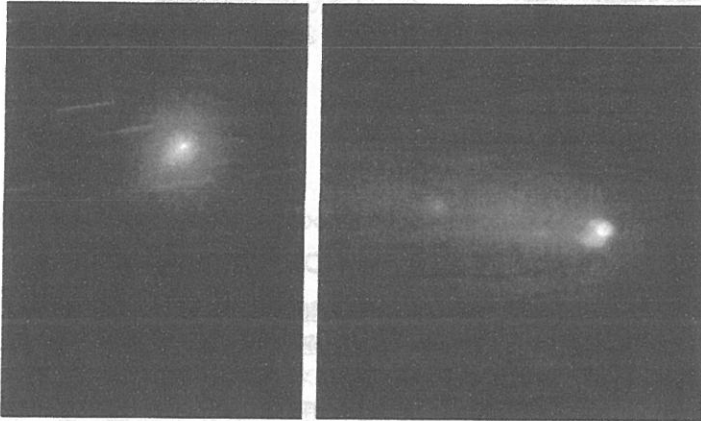




天文台だより

銀河の森天文台
2020 夏号
Vol. 88

崩壊したアトラス彗星 (C/2019 Y4) を観測！



アトラス彗星 (C/2019 Y4) は、2019年12月28日に、米国ハワイのATLAS (小惑星地球衝突最終警報システム) によって発見された彗星です。

発見当時は今年5月に明るい彗星になると予想され、3月半ばまで急激に増光し注目されていましたが、その後核が分裂したため増光が鈍り、期待通りの明るさにはなりませんでした。

左の2枚の画像は、2020年3月25日(左)と4月17日(右)にりくべつ望遠鏡で撮影したアトラス彗星です。右の画像では、もやっとした5、6個の分裂核が尾の中にあるのがわかります。4月20日にハッブル宇宙望遠鏡が観測した画像では、約30個の破片が観測されたそうです。

「館長コラム」上出洋介(牡牛座)

新型コロナウイルス。かぜの一種の感染症といえば、それだけのことも知れない。しかし、スケールが違う。この惑星(ほし)の上で、このウイルスと共存するために誤ってはいけない対処法がある。まだ記憶に新しい、2002年、2012年～、中国やアラビア半島で大流行したSARS、MERSと似ている要素もある。



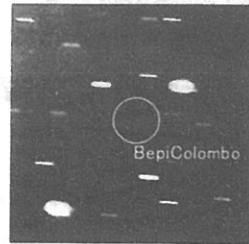
(上出洋介館長)

それにしても、現在地球全体を支配している新しいタイプのコロナウイルスのパワーは凄まじい。ビッグデータで見える限り、コロナウイルスの猛威や伝わり方に例はなく、この原稿が皆さんに配られるころには、全く新しい展開になっているかもしれない。加えて、世界の経済不況はどうなっていくのか。

被害は、人命だけではない。全世界が舞台でいろいろな国、地域での死者数、経済的損失をリストアップしてみれば、歴史に例がない数字。今後、この地球とそこに住みついている生物への損害を...中でも、人間が創った航空機、光のスピードで伝わる情報の果たした役割は計り知れない。ウイルスの影響は航空機に乗った人間が1日で地球を1回りする航空機の果たした役割も大きい。

コロナと聞けば、まず太陽のコロナを思う。コロナヒーター。コロナ空調機。コロナビール...。王冠オーロラ研究者にとって、コロナといえば、ブレークアップ直前の大規模なオーロラ分布。太陽研究者なら、温度100万度の領域。加速機構は、依然として太陽物理学最大のパドックスである。

水星探査機「ベピコロombo」を観測！



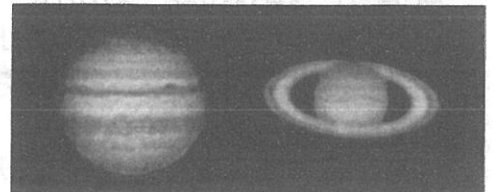
2018年10月20日に打ち上げられた水星探査機「ベピコロombo」は、水星に向かうために、2020年4月10日に地球をスイングバイし、地球に接近後遠ざかっていきました。天文台でも4月10日から観測を始め、19日まで観測することができました。左上の画像は、19日に観測したもので白丸の中心に点で映っているのが探査機「ベピコロombo」です。地球からの距離は約330万kmでした。各日の観測画像は天文台Twitterをご覧ください。

探査機は、2025年12月に水星周回軌道に入る予定です。

夏は木星・土星が見頃です！

今年の夏は、木星と土星がいて座の中で並んで輝き、見頃を迎えます。大型望遠鏡でその美しい姿をお楽しみください。

空いている時間帯でデジタルカメラや携帯での撮影もできます。



暦表

(陸別町)

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
7月 1日	3:44	19:14	9.8	14:47	0:43
7月 15日	3:54	19:08	23.8	—:—	13:51
8月 1日	4:11	18:51	11.4	17:12	1:20
8月 15日	4:26	18:32	25.4	—:—	15:47
9月 1日	4:45	18:04	13.0	17:55	3:16
9月 15日	5:01	17:39	27.0	1:38	16:47

天文台からのお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、7月11日(土)に開催を予定していた「第12回陸別スターライトフェスティバル」及びJAXA津田雄一先生の講演会を中止させていただきます。安心安全を最優先に考えての決定に何卒ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

裏面もあります

天文行事&暦

7月

- 5 ○満月
- 7 小暑(24節気:太陽黄経105°)
- 10 金星が最大光度(-4.5等)
- 14 木星が衝(-2.8等, 視直径47".6)
- 15-26 木星・土星観望会
- 21 ●新月
土星が衝(0.1等, 視直径18".5)
- 22 大暑(24節気:太陽黄経120°)
- 23 水星が西方最大離角
(光度:0.3等, 離角:20°.1)

8月

- 4 ○満月
- 5-16 木星・土星と夏の天体観望会
- 7 立秋(24節気:太陽黄経135°)
- 10, 11 天文台特別開館
- 12, 13 ペルセウス座流星群観望会
- 12 ペルセウス座流星群が極大
(PM10時 最大40個/時)
- 13 金星が西方最大離角
(光度:-4.3等, 離角:45°.8)
- 19 ●新月
- 23 処暑(24節気:太陽黄経150°)
- 25 旧七夕

9月

- 2 ○満月
- 7 白露(24節気:太陽黄経165°)
- 12 海王星が衝(7.8等, 視直径2".4)
- 16-27 外惑星と秋の天体観望会
- 17 ●新月
- 21, 22 天文台特別開館
- 22 秋分(24節気:太陽黄経180°)

夏のイベント情報!!

☆木星・土星観望会

今年は、いて座の中に木星と土星があり、この時期見頃を迎えます。望遠鏡では木星の縞模様や土星の輪も楽しめます。

開催日: 7月15日(水)~26日(日)

※ 観望会は開催しますが、説明会は中止になります。

☆木星・土星と夏の天体観望会

いて座で並んで輝いている木星・土星と夏の天体を観望します。ぜひ、ご来館下さい。

開催日: 8月5日(水)~16日(日)

説明会: 午後7時30分から(土曜・日曜・祝日のみ)

☆ペルセウス座流星群観望会

今年のペルセウス座流星群は8月12日の午後10時に極大時刻を迎えます。流れ星が多いと予想されるこの期間に観望会を開催します。

開催日: 8月12日(水)、13日(木)

説明会: 午後7時30分から

☆外惑星と秋の天体観望会

外惑星(火星、木星、土星、天王星、海王星)と秋の天体を観望します。ぜひ、ご来館ください。

開催日: 9月16日(水)~27日(日)

説明会: 午後7時30分から(土曜・日曜・祝日のみ)

天文台からのお知らせ

☆ 8月10日・11日、9月21日・22日は、月・火曜日で、特別開館いたします。

ペッコカめぐり「つりばり?ざりがに?」

「つりばり」や「ざりがに」と聞いて思い浮かぶ星座はありますか?もちろんつりばり座やざりがに座にはありませんが、これらはさそり座を別の名で呼んだものです。和名では、さそり座を「魚釣り星」と呼びました。さそり座の星の並びをつりばりに見立てたのです。実際、さそり座の星の並びはつりばりにそっくりですね。そして、アイヌの一部では「ホルカテレケブ・ノチウ(ざりがに星)」呼んでいました。さそりとざりがに、なんだかよく似ていますね。遠く離れたギリシアと北海道で、同じような生きものをイメージしたのか?それともなんらかのつながりがあったのでしょうか? (中)



天体そもそも話「惑星」

英語で惑星のことを「プラネット」と言います。この言葉はギリシア語の「プラネテス=さ迷うもの」が語源となっており、他の星とは違う動きを見せる星たちを指します。惑星は地球と同じように太陽の周りをそれぞれの周期で回っているため、その様子を地球から観測した場合、他の星との位置関係を変え、さ迷うように見えるからです。では、どうして日本では「惑星」と呼ばれているのでしょうか。それは江戸時代にコペルニクスの地動説を翻訳する際に、「惑う(さ迷う)星」という意味で「惑星」の字が充てられたからです。

現在は太陽系における惑星の定義として、「太陽の周囲を公転していること」「自身の重力で球形を保っていること」「軌道上の他の天体を一掃していること」という明確な基準が定められ、3つ目の基準を満たせなかった冥王星は惑星のカテゴリーから除外され、「準惑星」になっています。 (三)

発行・編集: りくべつ宇宙地球科学館 (銀河の森天文台)

〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL: 0156-27-8100

URL: <https://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>

E-mail: ginga@rikubetsu.jp Twitter: @ginganomori_obs



裏面もあります